



## 太陽光 発電シミュレーション

## 丸仙住宅様モデルプラン

## 太陽光発電システムのご提案

## 【設置情報】

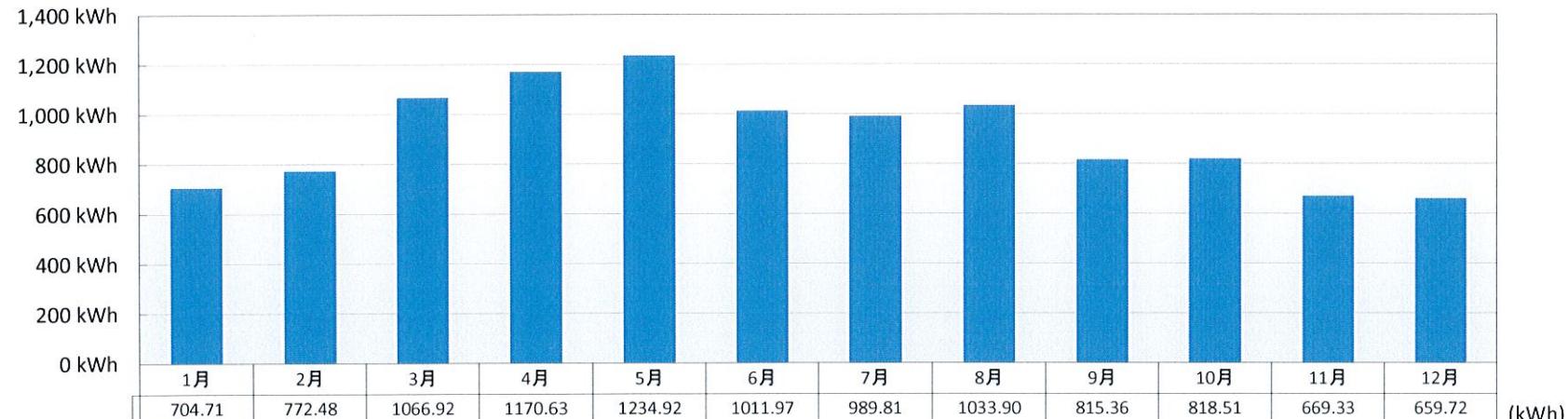
最寄りの気象地点				モジュール			
都道府県	宮城県	緯度	38° 1.0'	名称	STP325S-20/Wfhm	枚数	26 枚
地名	五ヶ瀬	経度	140° 52.0'		STP255S-16/Tfhm	枚数	6 枚
						枚数	枚
パワーコンディショナ				設置条件		システム容量	
名称	YLE-TL44C		2 効率	96.5%	異直列有無	有	9.98 kW
			効率		積雪考慮	有	
			効率				

LIXILの  
ソーラー

で

はじめませんか？  
太陽光発電生活！

## ◆ 月別予想発電量シミュレーション



注1 本シミュレーション結果は実際の設置時の発電量を保証するものではありません。あくまでも目安としてご利用ください。

注2 システムの「太陽電池容量」は、JIS規格に基づいて算出された太陽電池モジュール出力の合計値です。

(JIS標準試験条件：AM1.5, 日射強度1kW/m<sup>2</sup>, モジュール温度25°C)

注3 実使用時の出力（発電電力）は、日射の強さ、設置条件（方位・角度・周辺環境）、地域差、及び温度条件により異なります。

注4 発電電力は最大でも次の損失により、太陽電池容量の70~80%程度になります。

注5 「日射間隔データ」の作成・調査によります。

注6 発電量算定方法はJPEAの「太陽電池モジュールの発電量算定法」によるものです。

注7 発電量算定式は、月別発電量(kWh)=太陽電池容量(kW)×月平均傾斜日射量(kWh/m<sup>2</sup>·day) × その月の日数 × パワーコンディショナー換算効率

× 温度補正係数 × (1-その他損失+その他係数)

注8 太陽電池モジュール温度上界による損失=12月～3月：10%、4月～5月：15%、6月～9月：20%、10月～11月：15%

注9 屋根一体型は、この温度損失に加え、JIS-C8907: 2005 付属書Gで用いられている係数を参考にした温度損失を考慮しています。

その他係数については、注9以降を参照してください。

モジュールの出荷時のポジティブトレランスを見込んでいます。

積雪時、モジュールが雪に埋まっていると、発電されない場合があります。

積雪考慮時の発電量の計算はNEOJ(日本気象協会)「全国日射量データマップ(MONSLA11)」の「10cm積雪出現率」の値を利用しています。

注10 諸条件（気象、立地、設置条件、影の影など）により、実際の発電電力量は大きく変動する場合があります。

注11 実際の建物に設置した場合には、傾斜角、方位角、緯度により発電量が異なります。

注12 実際の建物に設置した場合には、システム回路構成及び構成機器種類により発電量が異なる場合があります。

注13 単結晶モジュール使用による補正系数=+2%

注14 (財團法人)新エネルギー財團『太陽光発電モニター事業等に関する調査(平成20年3月)』より適用)としています。

注15 モジュールの出荷時のポジティブトレランスを見込んでいます。

注16 引き込み線の全長が10mを超えた場合、配線ロス等により、超過分10m当たり1%程度の発電量の低下に繋がる可能性があります。

注17 また、これら超過分のロスについて、各種シミュレーションには反映されません。

## 年間発電量予測

10,948 kWh

作成日 2020/9/18

株式会社 LIXIL

LIXIL